

KISS FM、新脚本家参加 二人のラジオ物語、18年

関西の若手劇作家らが脚本を執筆するKissFM KOBEのラジオドラマ「ストーリー・フォー・トゥー」(土曜午後9時55分～10時)が18年目を迎え、大阪の劇団「子供鉦人」主宰の益山貴司がレギュラー脚本家に加わった。益山は「演劇とは違い、音だけの世界。登場人物が二人という制約も想像力をかき立てる。ジャンルにとらわれずに書くのが楽しみ」と意気込んでいる。

1996年の放送開始以来、劇団「IQ5000」主宰の腹筋善之介と「維新派」の平野舞が出演。恋愛や家族を描くほか、人間以外が主人公となる場合

もある。結婚式場がスポンサーなので「離婚」にまつわる言葉を使わないこと以外、物語に制約はない。

益山は自身の劇団を率いて東京や欧州で公演する一方、役者として劇作家野田秀樹の劇団などで活躍。初めて担当した「本能寺の恋」(20日放送)では、織田信長と森蘭丸のはちゃめちやな恋物語を描いた。

長寿番組の原動力について腹筋は「家族的な雰囲気の出演者とスタッフに、新しい脚本家が常に最先端の風を吹き込んでくれるから」と話している。(金川 篤)



「ストーリー・フォー・トゥー」に出演する腹筋善之介(前列右)と平野舞(同左)、脚本の益山貴司=大阪市内